

テルミン博士生誕 120 周年記念特別展閉幕 “音楽と革命・それはテルミンから始まった” 2016.8.3 ~ 31 15,000 人の見学者で賑わいました



20 世紀における楽器界の大革命、それは言うまでもなく電子楽器の登場でしょう。過去何千年にもわたる楽器の歴史は目に見える物体、あるいは肌で感じることができる空気を振動させて発音する楽器の歴史でしたが、電気の生産とそれに続く電子の発見は、電子音という、自然界には無いまさしく人工の音を生み出したのです。もちろん電気や電子は楽器のために発見されたのではなく産業や軍事目的であったのですが、その技術を使って人は新しい楽器を作ったのです。

最初は単なるノイズのようであった音、そして使うには余りにも大きすぎたり操作が困難な本体。そんな非実用的な電子楽器を、小さく、そして人が操作できるものにした第1号の楽器が「テルミン」でした。

発明者は、ペトログラード物理工科大学電子振動研究室主任の物理学者レフ・テルミン博士（1896 ~ 1993）です。彼はチェロを嗜んでいたのも、おそらく弦楽器のような音色と操作性、演奏感が実現できる楽器を目指したのでしょう、テルミンはチェロを彷彿させる音色と表現力を持っています。フレットの無い弓奏弦楽器の特徴である、音を持続し、音量と音程を無段階で変え、ビブラートを

つけることができるのです。まさに歌える電子楽器でした。そして、楽器に手を触れずに、両手をアンテナに近づけたり遠ざけたりすることによって操作するという画期的な演奏方法。単純であるが故の難しさと奥深さを持つ電子楽器でした。

今回の展覧会は、楽器の構造よりも、テルミン博士の思想、その後の電子技術と電子楽器の歩んだ道に焦点をあてました。また、テルミンの機能の一部をロシアの民芸人形マトリョーシカに組み込んだ「マトリョミン」を演奏できるコーナーや、期間中毎日開催したテルミンのミニコンサートなど、テルミンを実体験できる展示としたのも好評で、連日多くのお客様で賑わいました。さらに、博士の実娘ナターリアさんと曾孫のピョートルさんが初来日し、当館はじめ各地でレクチャーコンサートを開催。大きな反響を呼び日本のテルミン愛好家に感動を与えてくれました。

展示とレクチャーコンサートの総監修をしてくださったのは、日本にテルミンを紹介し、自らも演奏教育活動をしておられるテルミンのパイオニア竹内正実さんです。

電子楽器と人間がいかに向き合っていくかを考えさせられる夏でした。

第 182 回レクチャーコンサート 「諸行無常の響き 声明と平家琵琶～語りにみる仏教哲学～」



日 時：平成 28 年 7 月 20 日（水）19:00 ～ 21:00
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：海老原廣伸（声明）、
菊央雄司、田中奈央一、日吉章吾（平家語り）、
近藤静乃（解説）、薦田治子（司会）
入場者：136 人

『平家物語』を琵琶の伴奏で語る音楽のことを「平家」といいます。そして、その「平家」の節回しの元になったのは、仏教儀式で僧侶が唱える声明。平家と日本の声楽の源ともいべき声明の関わりを、座談と演奏を交えて紹介しました。

まず、「恵心講 二十五三昧式」より声明が唱えられました。厳かで深い響きのある声が会場に響きわたり、心が浄化されるようでした。実際に行われる儀式に近い状態で唱えられ、声明の後半には散華（さんげ）が行われました。

座談では「声明と平家の関係とは」と題して双方の似ているところなどがとりあげられました。また、声明には琵琶の伴奏が付きませんが、今回は試しに平家琵琶の伴奏を付けて声明を唱えました。元々は声明も琵琶の伴奏が付いていたということもあって、違和感無く聴くことができました。

締めくくりには「平家《宇治川》より」梶原源太景季と佐々木四郎高綱の 2 人の武将の駆け引きの様子が唄われました。特に馬が勢いよく駆けていたのが、少し歩を緩める場面では、琵琶の伴奏も速度が遅くなり、その様子が目の前に繰り広げられているかのように表現されていました。

声明と琵琶の音を堪能できるとあって、多くのお客様が詰め掛けてくださいました。厳かな雰囲気の中で日本の音を十分に堪能することができました。

第 183 回レクチャーコンサート 「音楽と革命 それはテルミンから始まった～20 世紀と電子楽器の幕開け～」



日 時：平成 28 年 8 月 7 日（日）19:00 ～ 20:30
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：ナターリア・テルミン、ピョートル・テルミン、
竹内正実、濱口晶代（テルミン）、門田佳子（ピアノ）
入場者：127 人

特別展「音楽と革命 それはテルミンから始まった」の関連イベントとして、テルミンのレクチャーコンサートを開催しました。

テルミンとはロシアのレフ・テルミン博士が発明した世界最古の実用的電子楽器です。装置が入った箱から垂直、水平方向にそれぞれ伸びているアンテナに手を近づけたり遠ざけたりして、音の高さや大きさを変えて演奏します。

今回のコンサートでは、テルミン博士の実娘のナターリア・テルミンさんと、直系の曾孫にあたるピョートル・テルミンさんをロシアからお迎えし、日本のテルミン演奏の第一人者・竹内正実さん、濱口晶代さん（テルミン）、門田佳子さん（ピアノ）とともにテルミンの魅力をたっぷりと紹介しました。楽器に触れずに演奏する様子は音を操っているようでとても不思議で、演奏者の手の動きは滑らかだったり、小刻みだったりします。その繊細な動きを見せる手元にも注目が集まりました。テルミンが発明された当時、ロシアの作曲家であるラフマニノフはテルミンの音色を聴き、この楽器の発明をととても喜んでいたそうです。ラフマニノフの曲がテルミンで演奏されることが多いとの事で、「ヴォカリーズ」などラフマニノフの曲を数曲演奏していただきました。

当日は、マトリョーシカ型テルミンのマトリョミンをお持ちのお客様が多く、コンサートの最後にテルミンと客席のマトリョミンの合同演奏があり、テルミン博士の生誕 120 周年に相応しい充実した内容のコンサートになりました。

スペシャルミュージアムサロン「クラヴィコード」&古典鍵盤楽器ガイド



スペシャルミュージアムサロン「クラヴィコード」
日 時：平成 28 年 8 月 6 日（土）13：30、14：30、15：30（各 20 分）
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：宮本とも子（演奏、解説） 入場者：184 人

古典鍵盤楽器ガイド
日 時：平成 28 年 8 月 6 日（土）14：00、15：00、16：00（各 20 分）
会 場：楽器博物館 鍵盤楽器ルーム
出 演：岩淵恵美子（演奏）、佐藤裕一（解説） 入場者：182 人

8 月 6 日（土）の午後は、日本クラヴィア協会と楽器博物館との共同開催で宮本とも子さんによるクラヴィコードのミュージアムサロンと、岩淵恵美子さん、佐藤裕一さんによる古典鍵盤楽器ガイドを開催しました。

ミュージアムサロンの始めに当館館長からクラヴィコード、チェンバロ、ピアノの音の出る仕組みについての解説がありました。その後、宮本さんに当館所蔵のクラヴィコード（リンドホルム 1788 年ストックホルム）を使用し、バッハやムファットの曲を演奏していただきました。弾き方が変わることによって音色も変化し、クラヴィコードの持つ表現の奥深さを紹介していただきました。また、チェンバロとの弾き比べもしてくださり、音色や音量の違いを実感することができました。クラヴィコードは大変音の小さい楽器です。少しの雑音で音がかき消されてしまうため、お客様も息を潜めながら集中して聴いていらっしゃいました。

古典鍵盤楽器ガイドでは、当館所蔵のカークマン（1791 年ロンドン）のチェンバロ、キーン（18 世紀初期ロンドン）のスピネット、ラウド（1805 年ロンドン）のスクエア・ピアノ、クリストフォリ（復元品）、ワルター（1808-10 年ウィーン）、伝グラーフ（1819-20? 年ウィーン）、ブロードウッド（1802 年ロンドン）、プレイエル（1830 年パリ）のピアノについて各回テーマを設けて紹介していただきました。

展示品の音が聴ける、大変貴重な時間でした。参加されたお客様もお話と演奏にじっくり耳を傾けていらっしゃり、素晴らしい午後のひとときとなりました。

イブニングサロンコンサート「名器リンドホルム・クラヴィコードの魅惑」



日 時：平成 28 年 8 月 6 日（土）18：30～20：00
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：宮本とも子
入場者：89 人

8 月 6 日（土）、日本クラヴィア協会と楽器博物館との共同開催でイブニングサロンコンサートを行いました。クラヴィコード奏者の宮本とも子さんをお招きし、当館所蔵のクラヴィコード（リンドホルム 1788 年ストックホルム）のクラヴィコードを演奏していただきました。

クラヴィコードはピアノよりも歴史が長く、16～18 世紀によく使用されていました。蓋を開けると自分の方に繊細な音が聴こえるようになっていることから、プライベートな空間で楽しまれてきたことがわかります。その分、演奏者はクラヴィコードに対して、愛着もひとしおだったようです。

J.S. バッハ、C.P.E. バッハ、ハイドン等の作品が演奏され、特に、大のクラヴィコード好きとして知られる C.P.E. バッハが、約 50 年愛用していたクラヴィコードを手放す時に作られた「クラヴィコードに別れを告げるロンド」という曲が印象的でした。また、バッハといっても、父と息子の作品では全く別のアプローチで作品が描かれている為、両者の作品を聴き比べてみると、とても同じ楽器思えない程の響きの違いを感じることができました。

また、宮本さんから鍵盤楽器の奏法について、楽器製作者の高橋靖志さんからは製作者の視点から見た楽器についてのお話がありました。

最後には、当館の CD に録音されている曲も披露してくださり、大変有意義なコンサートとなりました。

ミニコンサート「アフリカの楽器～親指ピアノ、バラフォン～」



日 時：平成 28 年 7 月 10 日（土）14:00、15:30（各 30 分）
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：ロビン・ロイド
入場者：137 人

当館ではおなじみのロビン・ロイドさんをお迎えして、アフリカの楽器を紹介するミニコンサートを開催しました。

ロビンさんは足に付けた木の実でできたガラガラでリズムを刻みながら、笛を吹いて登場されました。ロビンさんの足のリズムに合わせて、お客様とリズムのセッションをすると、雰囲気がとても和やかになり、時折笑い声も聞こえて来ました。次に「親指ピアノ」を全部で 6 つほど持ってきてくださり、それぞれの音色の違いを聞き比べました。「この音階はドレミではなく、好きなように調整しています」との言葉に驚きの声が上がりました。最後は展示しているコンゴの木琴「バラフォン」を使っの即興演奏です。ただの即興ではなく「夫婦喧嘩から仲直りするまで」を表現したもので、まるで夫婦の会話が聞こえてくるようでした。

コンサート終了後には体験用の親指ピアノを用意してくださり、多くのお客様と交流を深めていました。

ミニコンサート「オカリナ」イタリアから若手オカリナグループが来日 !!



日 時：平成 28 年 7 月 24 日（日）14:00 ～ 14:30
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：モリネッラ・オカリナグループ
入場者：110 人

イタリア・ボローニャの若手オカリナグループ、「モリネッラ・オカリナグループ（MOG）」による演奏を楽しみました。MOG は、一昨年にはペザロ国際音楽コンクールのロッシーニ賞を受賞するなど世界的に活躍してるグループです。今回は 16 歳から 24 歳までのメンバー 8 名と、指導者のエミリアーノさんが来て下さいました。

モーツァルト作曲「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」や J. シュトラウス作曲「トリッチ・トラッチ・ポルカ」、ジャズのメジャーナンバー「テイク・ファイブ」などが演奏されました。調和のとれた素晴らしいアンサンブルとメンバーの超絶技巧を、お客様も楽しそうにご覧になっていました。

日本ツアー中ということで忙しいスケジュールの合間にご出演いただきました。世界トップレベルのオカリナ・アンサンブルが聴ける貴重な機会でした。

ミニコンサート「サクソフォン・アンサンブル」



日 時：平成 28 年 7 月 31 日（日）14:00、15:30（各 30 分）
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：浜松サクソフォンクラブ
入場者：218 人

浜松を拠点に活動している、浜松サクソフォンクラブの皆さんに演奏していただきました。

毎年大編成のアンサンブルで演奏して下さる団体ですが、今回はソロや 4 重奏といった小編成で演奏していただきました。ソプラノサックスのソロでテレマン作曲「無伴奏フルートのための 12 の幻想曲より 第 5 番」やバリトンサックスのソロでバッハ作曲「無伴奏チェロ組曲第 1 番よりプレリュード」、続いて 4 重奏ではスカルラッティ作曲（伊藤康英編曲）「ソナタ」、真島俊夫作曲「キャフェ・サンジェルマン」などが演奏されました。サクソフォンは 1840 年代にアドルフ・サックスによって発明された楽器です。「演奏している楽器と、当館に展示してあるアドルフ・サックス製の楽器を見比べてみてください」と楽器についての解説もありました。バロック期から現代まで幅広い音楽を楽しむことができました。

ミニコンサート「南米の楽器～アルパ、チャランゴ、ギタロン～」



日 時：平成 28 年 8 月 13 日（土） 14:00、15:30（各 30 分）
 会 場：楽器博物館 天空ホール
 出 演：長島忠之（アルパ）、
 パブロ・テロネス（ギター、チャランゴ）、
 桜井壮憲（ギタロン）、田中淳子（パンパイプ）
 入場者：185 人

アルパとはスペイン語でハーブという意味です。西洋のハーブととても似ていますが、調律や奏法が違います。

今回はアルパを長島忠之さん、ギター、チャランゴをペルー出身のパブロ・テロネスさん、ギタロンを桜井壮憲さん、そして、ルーマニアのパンパイプを田中淳子さんに演奏していただきました。

南米の曲「カスカーダ（滝）」や日本でもおなじみの「コーヒー・ルンバ」、アルパの長島さんが作曲された「エル・コミエンソ」、小説家である五木寛之さんが作詞を手掛けた「エレジー 心の道」などが演奏されました。「カスカーダ」は滝が流れる様子を表現した作品で、南米のカラフルな民族衣装のように陽気な印象があり、「エレジー 心の道」は日本的で心に染みる、味わい深い作品で、さまざまな雰囲気を楽しむことができました。コンサート後には、アルパの体験をさせていただきました。大人も子ども楽しそうに楽器に触れていました。

ミニコンサート「クラリネット・アンサンブル」



日 時：平成 28 年 8 月 14 日（日） 14:00、15:30（各 30 分）
 会 場：楽器博物館 天空ホール
 出 演：浜松クラリネットクワイアー
 入場者：216 人

浜松近郊のクラリネット愛好家の方たちで結成されている、浜松クラリネットクワイアーの皆さんに演奏していただきました。吹奏楽でよく使われるクラリネットだけでなく、ソプラノ、アルト、バスなどのクラリネットも紹介していただきました。

鈴木英史作曲「フォスター・ラブソディー」やレハール作曲「喜歌劇 メリー・ウィドウ セレクション」、成田為三作曲「浜辺の歌」が演奏され、中でも、メンバーの内山大輔さん編曲の「ソドレミの歌」が印象的でした。「ソド・レ・ミ」のメロディーから始まる有名な曲が多いということで、古今東西のソドレミから始まる曲がふんだん盛り込まれたメドレーとなっており、大変聴きごたえのある作品でした。

クラリネットならではの、心地よい音色を存分に楽しむことができました。

ミニコンサート「アイリッシュ・ハーブとギター」



日 時：平成 28 年 8 月 15 日（月） 14:00、15:30（各 30 分）
 会 場：楽器博物館 天空ホール
 出 演：寺本圭佑（アイリッシュ・ハーブ、ボヘミアン・ハーブ）、
 山口亮志（ギター、ブズーキ）
 入場者：180 人

アイリッシュ・ハーブ奏者の寺本圭佑さんとギター奏者の山口亮志さんをお迎えしてミニコンサートを開催しました。

アイリッシュ・ハーブとギターのデュエットでカナリア諸島由来のダンス音楽「カナリー」やイギリス民謡の「スカボロー・フェア」「グリーン・スリーブス」などが演奏されました。寺本さんは演奏だけでなく、楽器の製作もされていて、今回お持ちいただいたハーブもご自身で作られたそうです。アイリッシュ・ハーブは 1 本のケヤキの木をくりぬき、金属の弦を 24 本張って作ったものです。爪で弦をはじきますが、とても響きが長いので、手で音を止めながら演奏しているそうです。また、山口さんはギター 2 本と、ギリシャのブズーキという弦楽器も持って来て下さいました。ブズーキの独奏ではブルガリアの 11 拍子の曲が披露されました。

聴いている人が思わず息を潜めてしまう、優しい囁くような音にうっとりとしき入りました。

ミニコンサート「金管アンサンブル」



日 時：平成 28 年 8 月 21 日（日）14:00、15:30（各 30 分）
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：ハママツプラスアンサンブル
入場者：153 人

浜松市を中心に活動している、ハママツプラスアンサンブルの皆さんに演奏していただきました。この団体は 2010 年に結成され、古典から現代音楽まで幅広い音楽を演奏できる団体を目指しています。

8 月 21 日（日）は県民の日で無料入館日ということもあり、多くのお客様にお越しいただきました。

今回は、喜納昌吉作曲「花」や、リー・ハーライン作曲のディズニー音楽「星に願いを」、ゴードン・ラングフォード作曲「ロンドンの小景より ホース・ガーズ・パレード」などが演奏されました。プラスアンサンブルという力強いイメージがありますが、とても柔らかな優しい音色で、穏やかな曲調も多く、お客様も心地よさそうに聴いていらっしかったです。曲間には楽器紹介もしていただき、バス・トロンボーンとトロンボーンの大きさを見比べたり、ホルンの歴史について聞くことができました。

ヤマハフィーリングクラブ 管楽器づくりの旅 2016



日 時：平成 28 年 8 月 29 日（月）14:00～15:30
会 場：楽器博物館 天空ホール
レクチャー「管楽器の歴史について」 嶋和彦
コンサート「16 世紀から 21 世紀のオーボエ」
三宮正満（オーボエ）、水永牧子（電子ピアノ）

8 月 29 日（月）「管楽器」をテーマとしたヤマハフィーリングクラブ会員限定の“管楽器づくりの旅 2016”が開催されました。

ヤマハの豊岡工場を見学後、楽器博物館天空ホールにて、レクチャーとコンサートをお楽しみいただきました。レクチャーは「管楽器の歴史について」と題し、管楽器の種類やその歴史を、所蔵している楽器を用いながら当館館長が解説しました。次に三宮正満さん（オーボエ）と水永牧子さん（電子ピアノ）によるコンサート「16 世紀から 21 世紀のオーボエ」では、三宮さんに 17 本の楽器をお持ちいただき、オーボエの歴史について解説していただきました。全ての楽器を演奏していただき、バッハの時代から現代に至るまで、見た目の違いだけでなく音も聴ける大変貴重な機会となりました。歴史あるオーボエの魅力をより深く堪能することができました。

城北図書館開館 10 周年記念 楽器博物館連携講座

「スーホの白い馬」の馬頭琴って、どんな楽器？～たのしい楽器のお話とストロー笛工作



日 時：平成 28 年 8 月 4 日（木）10:00～11:45
会 場：浜松市城北図書館 2 階講座室
参加者：39 人

音楽関連資料の蔵書にも力を入れている浜松市城北図書館と連携し、小学生を対象にした講座を行いました。

まず始めに、図書館職員による「スーホの白い馬」の読み聞かせがあり、子ども達は集中して聞き入っていました。その後、当館職員が物語に出てくる「馬頭琴」や、モンゴルの遊牧民の暮らしや文化などの紹介をしました。「スーホの白い馬」では、馬頭琴は馬の骨や筋、皮や毛を使って作られますが、現代のほとんどの馬頭琴は木材と馬の尾の毛で作られます。しかし今回は当館で所蔵する馬の皮を使用した馬頭琴も子ども達に紹介することができました。

講座の後半には馬頭琴体験とストローを使った笛作りを行い、終始子ども達が積極的に取り組む姿を見られました。夏休みの楽しい思い出の 1 ページとなったのではないのでしょうか。

レクチャー&映画制作試写会「テルミンとマトリョミン」



日 時：平成 28 年 8 月 16 日（火）14:00 ～ 14:40
会 場：楽器博物館 天空ホール
解 説：中村賀与子
入場者：50 人

特別展「音楽と革命～それはテルミンから始まった～」関連イベントとして、制作途中の映画「テルミンとマトリョミン」の試写会を開催しました。映像作家の中村賀与子さんの解説を交えながら、映画の一部を鑑賞しました。

この映画は、テルミンとマトリョミン、それに関わる人たちのドキュメンタリー映画です。マトリョーシカ型テルミンのマトリョミンは浜松在住のテルミン奏者、竹内正実さんが 2000 年に開発した楽器です。映画の中では竹内さんがインタビューされる場面もあり、「テルミンというマイナーな楽器をメジャーな楽器にしたい。マトリョミンがテルミンに通じる入り口となるような楽器になればいいと思っていた。」とコメントされていました。また、ニューヨークでの電子楽器事情などのお話もあり、大変興味深い内容でした。

完成は来年を予定しているそうで、今から完成が待ち遠しいですね。

学芸員実習～未来の博物館を担う学芸員の育成～



期 間：平成 28 年 8 月 24 日（水）～ 29 日（月）
実習生：6 人

本年も博物館学芸員過程を履修している大学生を対象に学芸員実習を行いました。博物館の専門職である学芸員になるためには、大学で博物館について学ぶことに加え、博物館において実務実習をすることが定められています。そのため、当館では例年夏休み期間に 1 週間ほど実習を実施しています。

実習生は、資料管理や展示品にあてる照明についてなど、博物館の学芸業務のごく一部を体験をしました。また、テーマを定めて実際にお客様の前で発表する展示解説実習では、3 人のグループごとに文献調査、原稿づくり、パネルの作成などを行いました。実習生からは、「大学の講義では知ることのできない博物館の現場を体験でき勉強になった」といった感想がありました。当館のような楽器専門の博物館は珍しいので、音楽や音楽関連を専攻している実習生を全国から受け入れています。過去の実習生が博物館に実際に就職した例もあり、今後の活躍が期待されます。

インターンシップ～小学生を対象としたワークショップを開催～



期 間：平成 28 年 8 月 12 日（金）～ 9 月 4 日（日）延べ 10 日間
インターンシップ生：6 人

インターンシップは主に大学生が就職活動の参考にするため、進路に関係した企業などで就業体験を行うものです。学芸員実習とは異なり学芸員の資格取得を目的にしたものではありませんので、博物館に限らず幅広い分野に興味がある学生が参加しています。

学生たちは来館されたお客様と直接関わる展示室での業務を中心に就業体験をしました。展示室での業務は主に受付や展示室の巡回です。常日頃、当館職員がお客様に心地よく見学していただくためにどのようなことに注意しながら業務を行っているのかを学んでもらいました。また、小学生を対象とした手づくり楽器工作ワークショップも開催しました。このワークショップはボール紙とストローという身近な素材を使って、鳥の鳴き声が出せる「鳥笛」を製作するというもので、開催にあたり、どのように子どもたちに指導したらいいのか試行錯誤しながら活動していました。

博物館日誌

- 6/13 (月) ～ 17 (金)
移動楽器博物館 浜松市立赤佐小学校
- 6/19 (日) 展示室ガイドツアー 11:00 (アジア)、14:00 (鍵盤楽器)
参加者: 52 人
- 6/26 (日) 展示室ガイドツアー 11:00 (鍵盤楽器)、14:00 (アジア)
参加者: 47 人
- 6/28 (火) ～ 30 (木) 移動楽器博物館 浜松市立鹿玉小学校
- 7/1 (金) 市制記念日 無料入館日 入館者: 356 人
- 7/3 (日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00 (鍵盤楽器)
参加者: 40 人
- 7/7 (木) ～ 8 (金) 職場体験 県立浜北西高等学校2年生4人
- 7/10 (日) 展示室ガイドツアー 11:00 (鍵盤楽器)
参加者: 35 人
- 7/10 (日) シリーズ音楽の広場「アフリカの楽器」 14:00、15:30
天空ホール 出演: ロビン・ロイド 入場者: 137 人
- 7/14 (木) ～ 15 (金) 職場体験 県立江之島高等学校2年生4人
- 7/16 (土) 展示室ガイドツアー 14:00 (鍵盤楽器)
参加者: 47 人
- 7/17 (日) 展示室ガイドツアー 11:00 (アジア)、14:00 (鍵盤楽器)
参加者: 90 人
- 7/18 (月) 楽器づくりワークショップ「とり笛をつくろう!」
10:30、11:30 地下展示室 指導: 当館ボランティア
参加者: 17 人
- 7/20 (水) レクチャーコンサート
『諸行無常の響き 声明と平家琵琶〜語りにみる仏教哲学〜』
19:00 天空ホール 出演: 海老原廣伸 (声明)、
菊央雄司、田中奈央一、日吉章吾 (平家語り)、
近藤静乃 (解説)、薦田治子 (司会)
入場者: 136 人
- 7/23 (土) 展示室ガイドツアー 14:00 (鍵盤楽器) 参加者: 22 人
- 7/24 (日) 展示室ガイドツアー 14:00 (アジア) 参加者: 32 人
- 7/24 (日) シリーズ音楽の広場「オカリナ」 14:00
天空ホール 出演: モリネッラ・オカリナグループ
入場者: 120 人
- 7/31 (日) 展示室ガイドツアー 14:00 (アジア) 参加者: 22 人
- 7/31 (日) シリーズ音楽の広場「サクソフォン・アンサンブル」
14:00、15:30 天空ホール
出演: 浜松サクソフォンクラブ 入場者: 218 人
- 8/3 (水) 特別展「レフ・テルミン博士生誕 120 周年記念
音楽と革命 それはテルミンから始まった
〜 20 世紀と電子楽器の幕開け〜」開催
- 8/6 (土) スペシャルミュージアムサロン
「クラヴィコードって何?〜ピアノでもチェンバロでもない
耳を澄まして聴く、素敵な鍵盤楽器〜」
13:30 ～ 16:00 展示室
出演者: 宮本とも子 (演奏、解説) 岩淵恵美子 (演奏)、
佐藤裕一 (解説)
入場者: 366 人
- 8/6 (土) イブニングサロンコンサート
「名器リンドホルム・クラヴィコードの魅惑」
18:30 天空ホール 出演: 宮本とも子
入場者: 89 人
- 8/7 (日) 展示室ガイドツアー 11:00 (鍵盤楽器)、14:00 (アジア)
参加者: 41 人
- 8/7 (日) 「音楽と革命 それはテルミンから始まった
〜 20 世紀と電子楽器の幕開け〜」
19:00 天空ホール 出演: ピョートル・テルミン、
ナターリア・テルミン、竹内正実、濱口晶代 (テルミン)、
門田佳子 (ピアノ) 入場者: 127 人
- 8/12 (金) ～ 16 (火) インターンシップ A 日程 大学生: 3 人
- 8/13 (土) ミュージアムサロン「南米の楽器アルパ」
14:00、15:30 天空ホール
出演: 長島忠之 (アルパ)、
パブロ・テロネス (ギター、チャランゴ)、
桜井壮憲 (ギタロン)、田中淳子 (パンパイプ)
入場者: 185 人

- 8/14 (日) 展示室ガイドツアー 14:00 (アジア) 参加者: 35 人
- 8/14 (日) シリーズ音楽の広場「クラリネット・アンサンブル」
14:00、15:30 天空ホール
出演: 浜松クラリネットクワイアー 入場者: 216 人
- 8/15 (月) ミュージアムサロン「アイリッシュ・ハーブとギター」
14:00、15:30 天空ホール
出演: 寺本圭佑、山口亮志 入場者: 180 人
- 8/16 (火) レクチャー&映画制作試写会「テルミンとマトリョミン」
14:00 天空ホール 解説: 中村賀与子
入場者: 50 人
- 8/21 (日) 展示室ガイドツアー 14:00 (鍵盤楽器) 参加者: 48 人
- 8/21 (日) シリーズ音楽の広場「金管アンサンブル」
14:00、15:30 天空ホール
出演: ハママツプラスアンサンブル
入場者: 153 人
- 8/21 (日) 県民の日 無料入館日 入館者: 1,152 人
- 8/24 (水) ～ 29 (月) 学芸員実習 実習生: 6 人
- 8/28 (日) 展示室ガイドツアー 11:00 (鍵盤楽器)、14:00 (アジア)
参加者: 48 人
- 8/31 (水) 特別展「レフ・テルミン博士生誕 120 周年記念
音楽と革命 それはテルミンから始まった
〜 20 世紀と電子楽器の幕開け〜」終了
期間中入館者数: 15,127 人
- 8/31 (水) ～ 9/4 (日) インターンシップ B 日程 大学生: 6 人

♪ ギャラリートーク

(職員が毎日数回、展示品をひとつ選んで 10 分間ほど解説)

6 月 計 104 回 参加者: 1,146 人

7 月 計 102 回 参加者: 1,217 人

8 月 計 106 回 参加者: 2,342 人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回
展示品の解説を行います
- 企画展
「一絃の琴・二絃の琴〜現在に伝わる和の響き〜」
9/11 (日) ～ 10/11 (火)
- レクチャーコンサート
「スウェーデン伝統音楽の現在〜伝統と革新と〜」
10/5 (水) 19:00 天空ホール
出演: ヨーナス&ヨセフィーナ
(ヨナス・オーケルンド、ヨセフィーナ・パウルソン)
「ひとつの音に世界を聴く〜一絃琴と尺八による和洋の出逢い〜」
10/12 (水) 19:00 天空ホール
出演: 峯岸一水、エリザベス・ブラウン、ラルフ・サミュエルソン
- 楽器体験ワークショップ
「清虚洞一絃琴を弾こう」
9/17 (土) 14:00 アクトシティ浜松研修交流センター
講師: 峯岸一水、篠沢一激
- ミニコンサート 14:00、15:30 天空ホール
9/18 (日) 「一絃琴」 出演: 峯岸一水、篠沢一激、萩野一汎
9/25 (日) 「リコーダーとフルート」
出演: 桐畑奈央、梶原弘子、松尾圭子

レクチャーコンサート日程変更のお知らせ

「ひとつの音に世界を聴く
〜一絃琴と尺八による和洋の出逢い〜」は
10/12 (水) に変更いたしました。

浜松市楽器博物館だより

平成 28 年 9 月 10 日発行 No.112 編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央 3-9-1 TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
URL <http://www.gakkihaku.jp/>